



まえがき

南無阿弥陀仏なむあみだ仏、立っても坐っても、寝ても起きても、称え易くして廻向してくださいとさつてあることが有り難い。耄碌したのか、暗記していたお経は間違えることはあっても、お念仏を間違えることなく、四六時中称えさしていたでいてることが有り難い。十日も二十日も前から「まえがき」にはこんな「書こうと心のなかで繰り返していたけれども、机に向かう気力が無い。ペンを執ると、頭が散漫として纏らない。これを老衰というのでしようか。しかし「まえがき」の目的地には、どんなことがあっても到達しなければならぬ」と駄馬に鞭撻しているけれども、思うように走りません。御飯のときには元気がよく食べますけれども、消化するまで休養すると、次の食事までは寝てお念仏していますので、元気を出しては食べては寝ているのが関の山の仕事で、皆さんこれが一生涯の終わりでございます。若い元気な間に、次の世界の用意を

完成さしていただいております。よろや。

51・1・2・9・7

二

○ ○

南無阿弥陀仏、なむあみだぶつ、宗教とは死ぬる用意かと思つていましたら、迷いの打ち留をさしてくださる最高無上の信仰を与えてくださる道場でございまして。こんな素晴らしい世界に受生さしていただいて、何か置き土産をしていかねばならぬと考えぬいた末、私の全集の第十二集の『聖典』が残りわずかになりましたので、『宝典』と改名して、最後に法話を入れて後の世に遺すことに致しました。

先輩や同輩や御同朋や御同行が、ご指導、激励、ご援助くださいました鴻恩は無限でございますが、その一端に報ゆるためにも、これを出版してご霊前にお供えることにしよう。そうすれば子孫の方々が、ご霊前に捧げてくださるときに、一度なりともお念仏を称えてくださるだろう。祖先の方々は、子孫の

者のお称名の出ることを、どれほど喜ばれることでしよう。祖先の慶びはみな子孫の幸福、成功の原因となるのです。



現在の世相から見ますれば、子供の結婚となつてごらん下さい、百万弍百万の大金を投げ出しても、借金しても見栄を張っているのに、祖先の永代経に奉納する五万か拾万は出し渋っているのです。子供の玩具には千円万円は平気で買っているけれども、毎月与えなければならぬ老婆の小遣錢の弍千円を出すのを惜しがってはいませんか。子供の学資にはどれだけ出世、成功をしてくれるだろうかと希望に胸をふくらませながら投資しているが、若い先の短い両親を慰めてあげるどころかい、邪魔者扱いにしているではありませんか。よく反省しましよや、祖先、両親からは生育、長養、教育の鴻恩を蒙っているのですよ。子孫には大恩を貸しているのですよ。受けた大恩は返そうとはせず、貸した投資の利益を貪り取ろうとしているのですが、借りたご恩の返済が終わ

っていないから、貸した投資の利益が挙がらず、放蕩したり色狂いをして親を満足してくれないのではないのでしょうか。人間は慾に眼がないのですから、自分に都合のよい計算しか考えませんが、根が養分を吸い上げれば、枝葉は繁るのではないのでしょうか。自分が親を慶ばさず、育てた甲斐がないと泣かしておいて、親を満足さす子供ができる筈がないと思えますが、いかがでしょうか。

○ ○

釈尊は「過去の原因を知らんと欲すれば現在の結果を見よ、未来の結果を知らんと欲すれば現在の原因を見よ、皆是自己の影像のみ」といわれてあります。みなさんはこの人世をどんなにお考えになりますか。「善人は善を行じて明るみより明るみに入り、楽より楽に入る。悪人は悪を行じて冥より冥に入り、苦より苦に入る」と教えてありますが、この人世を楽土と見られますか、苦の土と見られますか、この人世は楽が半分、苦が半分、自分の心の持ち方で、楽土とも苦の土とも見れるのですよ。

人間の影法師を見てごらん下さい、正態が動けば動き、止まれば止まり、曲がれば曲がり、正しければ正しい影を落としていますよ。昨日までのあなたの動作が、今日の結果を開いているのですよ。「人間世界は苦が半分楽が半分」と言つて、自分の身口意の三業の動作を、毎日自分の心の蔵識に納めておいて、毎日その結果が顕われてくるのです。自分が作った身口意の動作は、自分が取り取らなければならぬから、自業自得というのです。心のなかに慾や怒や愚痴が衆苦充滿し、集積してありますから、思わぬ悪事や災難や、思わぬ不幸や失敗に見舞われて、手違いばかりで逆境苦悩のどん底で泣かなければならぬのです。

宗教を聞いて心の浄化を図られなければ、永久に苦しまなければなりません。あなたの毎日の起居動作は誰も知るまいと思つておられても、影法師は寸

分ぶん変へんわらず映うつつていますから、結けつ果かに頭あたまわれてくるのです。働はたらけども働はたらけども、努どり力りよくすれどもすれども、病び氣きの悩なやみの絶たえないのは、蒔まいた種たねの清せい算さんのできるまでは仕し方かたがないのです。あなたの心こころの向むきを変かえ、信しん仰こうの道みちにいって、少すこしでも善ぜんを実行じつこうしなければ、よい果か報ほうは向むかうて来こないのです。信しん仰こうの光ひかりの方ほうに向むいて進すすむのは榮さかえ、物ぶつ質しつの名利みょうりの闇に向むいて走はしるのは、苦くるしまなければなりません。

○ ○

文もん字じや言ごん葉えつでなければ導みちびかれません、文もん字じや言ごん葉えつを離はなれて体たい験げんし、実じつ行こうしなければ効こう果かは挙がりません。

山さん家けの伝でん教きょう大だい師しは

七な難なん消しょう滅めつの誦じゆ文もんには

一いっ切さいの功く徳とくにすぐれたる

三さん世ぜの重じゆう障じやうみななから

国こく土ど人じん民みんをあはれみて

南な無む阿あ弥み陀だ仏ぶつを称ふべし。

南な無む阿あ弥み陀だ仏ぶつをとなふれば

かならず転てんじて輕きやう微みなり。

南無阿彌陀仏をとなふれば

この世の利益きはもなし

流転輪廻のつみきえて

定業中天のぞこりぬ。

五濁悪世の有情の

選択本願信ずれば

不可称不可説不可思議の

功德は行者の身にみたり。

「さのみ功能のあるべきともおぼえざるに、この六字の名号の中には無上甚深の功德利益の広大なることそのきわまりなきものなり」とありますが、皆さまはどれだけのご利益を蒙っておりますか。何年聞かしていただいても何ともないのは、話を聞いているだけで、信受したのでないからでしょう。あなたが成功した美談を聞かされて、いくら感激なさっても話ですから、あなたが成功したのでないように、死んだ先の話を聞かされているのですから、何ともないのが当然です。いま仏凡一体になり撰取されたのなら、聖人と同じ慶びでなければならぬのです。どうもなれないのは、撰取されていないからですよ。凡夫は煩惱があるから喜ばれないのだとは、あなたが勝手におっしゃるのですよ。煩惱と

一体たいになるための本願ほんがんですよ、一体たいになっていないから喜よろこばれないのですよ。
願がんは無上むじやう殊勝しゆしやうの願がん、それが無上むじやう宝珠ほうじゆの名号みやうごうとなり、私わたしに届とどいたときが無上むじやうの信心しんじん、無上むじやうの信心しんじんを獲えた者が無上むじやうの功德くどくを得えたので、この人ひとを大利だいりを獲うるとなす。無上むじやうの仏道ぶつどうを歩あゆましていただいて無上むじやう涅槃ねはんに到達とうたつする、天切てんきり飛び切きり極ごく上等じやうとう、比較ひかくするものなき大千世界だいせんせかいの功德くどくと一体たいになったのなら、溢あふれる慶よろこびはあるのです。それほど「ある」と聖人しやうにんさまは教おしえてくださつてあるのに、道俗みとびとに「ない」とすれば、話はなしを聞きいているのであり、死しんだ先の夢ゆめを見みせてもらつている空手形からてがたであり、頂いただいた真似まねばかりしている贗物にせものであり、観念かんねんの遊戯ゆうぎであり、机上きじやうの遊戯ゆうぎだから、あなた之魂たましいは救すくわれていないから慶よろこびが出てこないのではありませか。話はなしは易やすいが実地じつちは難むづかしい、理り解かいは易やすいが、体たい験けんは難むづかしいものですよ。